

第374空輸航空団、JPMRC 23-02 Alaskaを支援

374th Airlift Wing supports JPMRC 23-02 Alaska

April 11, 2023

374th Airlift Wing Public Affairs

アラスカ州エルメンドルフ・リチャードソン統合基地発—横田基地第374空輸航空団は、3月21日から4月2日にかけて行われた統合太平洋多国籍即応能力(JPMRC)演習で空輸支援を行い、アラスカ州エルメンドルフ・リチャードソン統合基地を拠点とする米陸軍とカナダ空軍の共同演習を成功させた。

JPMRCは、寒冷地で現実的なシナリオによる実働訓練を行い、米国の統合部隊及び同盟国間の相互運用性を高めることを目的とした訓練である。

第374空輸航空団は、他の参加部隊を支援するため、人員・重装備品の輸送や低コスト低空飛行(LCLA)を行った。

第5戦場調整分遣隊地上連絡官ブレット・マドリガル大尉は、「横田は、米陸軍第2旅団を支援するために空輸と空中投下を行った」と説明し、「それによって演習期間中、米陸軍は合同強行突入作戦や後方支援隊のパラシュート降下を実施した。大隊は今回のために訓練を重ねてきた。大規模な戦闘作戦を北極圏環境の中で行うこの演習の機会は、まさに大舞台だ」と述べた。

演習の期間中、アメリカ、カナダ、イタリア、オーストラリアのパラシュート部隊はルーティーンのパラシュート降下を行った。そして、ロードマスターたちはスタティックライン・ジャンプを支援する際の必要な手順を繰り返し演練する機会を得た。

第36空輸中隊訓練主任クリスチャン・フォンテーヌ大尉は、「今年は約1,000人もの米軍パラシュート隊員が降下し、統合部隊の突入をシミュレートした」と説明し、「横田ではこうした寒冷地や山間部で飛行する機会がそう多くないので、北極圏環境での経験を積む機会となった」と語った。

また、横田の隊員はC-130Jスーパーハーキュリーズを用いて、米陸軍のM142高機動ロケット砲システムHIMARS(呼称:ハイマース)の輸送と展開を支援した。

フォンテーヌ大尉は、「C-130JにHIMARSを搭載できるが、サイズがギリギリで、重量もある」「様々な前線にHIMARSを動員して、ターゲットのデータを収集し、射撃し、航空機に引き戻すといった迅速に展開する訓練も行った」と述べた。

今回のJPMRC演習では、多岐に渡って即応準備態勢の向上を図ったが、とりわけ第374空輸航空団にとってはグローバルな空輸任務を達成するためにはどの演習も必要不可欠だった。

またフォンテーヌ大尉は、「カナダ軍のLCLA空輸技能の修得を支援した」と述べ、「我々も彼らから梱包物のより効果的な固定方法などの知識を得ることができた。これらのLCLAを共に行うことで、毎年行っている人道支援のための空輸活動「クリスマス・ドロップ作戦」に将来カナダ軍も加わる準備ができる」と語った。

JPMRCは、パートナー部隊間の共通点を見つけ、また制約を知る上で有益な機会となった。この訓練で参加者は、稀な環境下での対応スキルを身につけ、多角的な視点に立ち全軍種の行動を練成することができた。

フォンテーヌ大尉は、「JPMRC演習の醍醐味は、空軍や陸軍の仲間たちと連携できることだと述べ、「この訓練に参加することで、共同作戦上の共通点や国際パートナー部隊独自の対処方法を知ることができ、予期しないことが起きた際に備えられる。調整可能な部分を全て洗い出したことで、これまでに増して態勢の強化が図れた」と言及した。

